

# 震災死OBの思い形に

## 八工大・土木建築工学科棟に「A-Café」

遺族からの  
寄付で整備  
「教育に役立てて」



「A-Café」には建築に関する書籍などが整備され、学生の自由な学びの空間となっている＝30日、八戸工業大

八戸工業大(長谷川明学長)の工学部土木建築工学科は、同科棟に学生の自由な学びの空間「A-Café」を開設した。東日本大震災で亡くなった同科卒業生の家族の寄付金により整備され、建築、防災に関する書籍などが並ぶ。大学関係者は「卒業生の建築への思いを形にした」と語り、その思いが学生に受け継がれることに期待している。

(田名部綾乃)

卒業生の男性は2009年度に当時の建築工学科を卒業。地元の宮城県石巻市で働いていたが、11年3月に津波で命を失った。同年12月、父親から大学側に「おとなしかった息子が大学に入って明るくなり、友達と楽しく過ごしていた。お世話になった建築工学科の教育に役立ててほしい」と、500万円の寄付の申し出があった。

大学は学科内に寄付金の運営委員会を設置し、カフェの整備を決定。17年夏から整備を進め、今春、オープンした。資料室を改修した98平方メートルの部屋には、テーブルやスクリーン、本棚を配備。想像力を育むため、木工オブジェや世界の建築を紹介する資料も展示した。カフェは授業に使うほか、学生たちが自由に入出し、自習などに活用している。

同科の月永洋一教授は「カフェを学生の主体的な学びのために使い、その成果を建築の将来へ生かしてほしい」と語った。